

分布：東北以南

セイヨウヒイラギ (モチノキ科)

イレックス アクイフォリウム
学名: *Ilex aquifolium*

西洋柊

別名：クリスマスホーリー、ヒイラギモチ、セイヨウヒイラギモギ、ホーリー

主な生育場所

公園や庭園などで栽培される。単植だけでなく、生垣としても使われる。半日陰で腐食が多くやや湿っぽい土壌を好む。耐寒性はあるが、氷点下が続く寒さが厳しい地域では育ちにくい。

特徴

ヨーロッパ中南部、西アジア及び北アフリカを原産で高さ6-8mほどになる常緑広葉樹。雌雄異株だが雌株だけでも結実する。光沢があり厚みのある葉は長さ5-12cm、幅2-6cmで互生。若い枝や葉縁には棘があるが、古い枝や葉には棘が少ない。花期は4-6月で白い4弁花を房状につけ、冬期に径6-10mmほどの果実が赤く熟す。



名前の由来：葉の縁がトゲ状にとがる在来の柊(ヒイラギ)の葉によく似た葉をつけるヨーロッパ原産の樹木であることから西洋柊。また別名のヒイラギモチは柊によく似たモチノキだから。

<農業との関係>

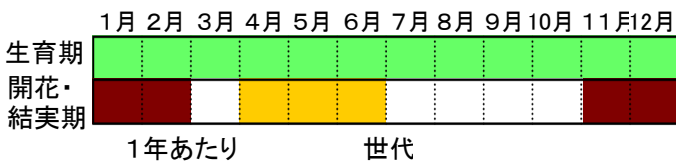
古代ローマでは、クロノス神とも同一視されローマ神話に登場する農耕神サトルヌスの木とされ、12月17日から23日にかけて行われるサトルナーリア祭(農神祭)ではセイヨウヒイラギの枝を添えて贈り物を渡す風習があった。この風習をのちにキリスト教徒が真似るようになり、ヨーロッパではクリスマスに欠かせないシンボルとなったといわれる。



11月から2月ごろまで赤く熟した果実がみられる

<生活史>

関東地方の例(目安)



<類似種>

在来のヒイラギの葉は対生し、実は黒紫色に熟す。またヒイラギとキンモクセイの雑種であるヒイラギキンモクセイの鋸歯はあまり尖らず、結実もしない。なお、ヒイラギもヒイラギキンモクセイもモチノキ科でなくモクセイ科の樹木である。

<一言うちく>

クリスマス装飾のシンボルによく利用されるセイヨウヒイラギですが、その花言葉には「神を信じます」「家族の幸せ」のほかに、「防衛」や「防衛」「将来の見通し」というものもあるようです。みなさんもセイヨウヒイラギの赤い実を眺めつつ、来年を予見してみてはいかがでしょうか。



葉先や葉の縁の鋸歯は鋭く尖る

<人との関わり合い>

クリスマスになくはならないセイヨウヒイラギは、キリストの足元から生まれた植物ともされ、葉の棘や赤い実はキリストの苦悩や流した血を象徴するとされる。また、ヒイラギと同様、棘のある葉は魔除けの効果もあるとされ、悪い妖精や悪魔がクリスマス期間に家の中などに入ってこないように家や店などにリースとして飾り付けられる。またクリスマス装飾のモチーフとしてもよく使われる。なお、赤い実にはサポニンが多く含まれ、食用には適さないが、白くて堅い材は、チェスの駒に利用される。

<俳句や短歌への登場>

※西洋柊は季語となっていないので、柊(冬の季語)、柊の花(晩秋の季語)が登場する句を紹介します。

柊を幸多かれと飾りけり (夏目漱石)	柊の花に晴れたりクリスマス (靑山柑子)
柊の花の上の霜や神の留守 (松瀬青々)	柊の花の香とある安息日 (広瀬ひろし)
柊のこゑにならざるこゑ交す (高澤良一)	柊の花つめたさよ今朝の冬 (篠原温亭)